

# 校長室の窓から

平成29年1月

## < 校訓 >

いのちを大切にしよう  
きまりを守ろう  
進んでことにあたらう  
相手の立場に立って考えよう



### いよいよ3学期のスタート ～あけましておめでとうございます 酉年～

「酉」は、「とり」と読みますが、実際には「にわとり」のことです。

そして、十二支の十番目です。「酉」という漢字は酒つぼを描いたもので、「酒」に関する字に使われてきました。収穫した作物から酒を抽出するという意味や、収穫できる状態であることから「実る」ということも表します。そのことから、果実が成熟した状態を表しているとされています。にわとりは人に時を報せる動物。「とり→とりこむ」で、商売に繋がるとされています。行動力があり、積極的。親切で世話好きであるという意味もあります。酉年について、このようなことが言われたりします。



さて、新しい年、3学期のスタートです。どのような年になるか、楽しみでもあり、不安な気持ちもあることでしょう。大事なことは、常に前向きな気持ちで、色々な困難なことにも粘り強く立ち向かっていこうとする気持ちを失わないことではないかと思えます。

スポーツでも勉強でも、目標を達成するためには、目的意識をしっかりと持つことが重要であり、その強い意志がすばらしい成果や結果をもたらしてくれるのだと思います。今年度のしめくりとも言える3学期がスタートしました。終わりよければ全てよし、頑張っていきましょう！鳥(酉)のように大きく羽ばたいていく年にしてほしいものです。

#### 「WE LOVE トンボ」絵画コンクール

銅賞 岩田順喜

#### 兵庫県中学校総合文化祭展覧会書写部門

特選 原 千尋

入選 橋 亜美、仲川美空

#### 市制100周年記念事業人権啓発標語

入選 名生明日香

#### 交通安全ポスターコンクール

入選 荊木 夢、上芝結花

#### 【吹奏楽部】

#### アンサンブルコンテスト東阪神地区大会

クラリネット5重奏 金賞

伊福百々花・三宅愛子・出永実久・川崎美祐

森 茜音

#### 花の絵コンクール

入選 松岡さゆり、板敷拓弥

### 生徒会執行部が決まりました

平成28年12月9日に生徒会役員改選が行われ、生徒会執行部が決定しました。立ち合い演説会では、それぞれ自分の思いや考えをしっかりと述べていました。やる気を全面に出して頑張りたいと思います。

1月10日の始業式で認証書を渡しましたが、武庫東中学校、そして自分たちの生活をよりよいものにしていく生徒会活動を展開してくれることを期待しています。旧生徒会執行部のみなさん、ご苦労さまでした。

#### <新執行部紹介>

会長:松島迅汰 …副会長の時より失敗を少なくし、悔しい思いをしないように一生懸命頑張ります。

副会長:角丸 巧 …会長と協力して、もっと元気で明るい学校にしたいです。

書記:山脇百葉 …会長、副会長、各委員会の委員長をサポートして精一杯頑張ります。

総務委員長:神保裕亮 …あいさつを推進できるように自分のベストをつくし精一杯頑張ります。

風紀委員長:国宗勇亜 …みなさんがより良い学校生活を送れるように精一杯頑張ります。

文化委員長:安田羽菜 …周りの支えがあって文化委員長なろうと思いました。全力で頑張ります。

体育委員長:上田翔一朗 …生徒会執行部としての責任感をもって頑張ります。

保健委員長:居原由依 …この学校みんなが元気になれるように努力していきます。

美化委員長:徳千代大和 …今まで以上に学校をきれいにできるように一生懸命頑張ります。

図書委員長:原田萌花 …今まで以上に学校を良くし盛り上げていけるように一生懸命頑張ろうと思います。

放送委員長:桑谷百香 …学校を盛り上げていけるように精一杯頑張ります。

### ひょうご安全の日 1・17 ～防災訓練～ 阪神淡路大震災

#### 地震の概要～阪神淡路大震災～

- (1) 発生日月 平成7年1月17日午前5時46分
- (2) 震源地 淡路島北部(北緯34度36分、東経135度20分)
- (3) 震源の深さ 16km
- (4) 規模 マグネチュード7.2

死者 6432名	行方不明 3名
負傷者 4万3792人	
(平成12年1月11日)	

22年前に発生した震災で、多くの尊い命が奪われました。亡くなられた方の77%が家屋の倒壊による窒息・圧死によるものだと言われています。(東日本大震災は、90%が地震後の巨大な津波による溺死と言われています。)地震発生直後から各地域で火災も発生しており、9%ぐらいの人が焼死や熱傷を負われています。また、水道、通信、電気等のライフライン施設の破損に加え、交通路、湾岸施設等のインフラ施設も破壊されたため、警察や消防もなかなか救助に行けませんでした。発生直後の人命救助や初期の消火活動では近隣の住民の協力が大きな役割を果たしたと言われています。そして、復興にむけ多くの市民が災害ボランティアとして参加しました。そのため、同年を「ボランティア元年」とも呼ばれています。

その後、日頃の地域のつながりや防災訓練の重要性が見直され、地域や学校などが連携した実践的な防災訓練が実施されるようになりました。私たちは2つの震災の教訓を生かして、自分たちにできることは何なのかということをしっかりと考えて毎日の生活を送っていかねばならないと思います。大切なことの1つに「自分の身は自分で守る」ということがあります。学校にいる時に災害が発生するとは限りません。登下校中、あるいは家に一人である時に発生することも考えられます。指示を受けてから動くのではなく、自分でしっかりと判断して行動しなければならない状況も十分考えられます。

災害に遭わないことが一番だと思いますが、いざという時には、慌てず、冷静に、そして、迅速に動くことが重要です。訓練がその時だけで終わるのではなく、また、訓練だけで終わるのではなく、「自分の身は自分で守る」ということの大切さを認識し、災害遭遇時の心構えをしっかりとつくってほしいと思います。

